

但右日乃三升令之或方よりあり  
右より通より名栗山細産下りりてあり

七月四日

栗山側宛

松平公福様

四十月十六日有之付 栗山側武田左衛門長尾信之丞  
向出火有之十四日有之娘方是あてと味線三挺持出白  
の家と御方密又之御二挺持出 向出の爲も味線持出  
和出の爲も味線持出の向出てポチと音せーかば  
何より御心と候之れ申より大起り

三十月八日進物有之右中助右衛門九付御川舟中  
和科御申之良足候也かとも是より息と候下り  
新大子御心と候也今日大奥山難有之

○四享保十九年四月傳 奏中山大納言兼頼々西三條大納

言公福々

先達而之 作進の禮儀類典此度出来之付分都十箱

之遊湯進御之早速進付あり 敵感不斜之事

以御水戸源義公及代より大納言類聚改正之書物御

之と候之御之重寶之御社之厚 湯満候之小事也

此方言上之 仁心あり、謹言

四月六日

公福

兼親 頼

松平左衛門助左衛門  
向井源次右衛門  
松平伊豆守左衛門